

令和3年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和4年3月7日

国際交流推進センター長 殿

下記のとおり報告します。

1. 国際研究集会名	COVID-19 禍における多様化する依存症問題に対応するための国際交流セミナー (Webinar)		
2. 事業責任者 (申請者)	藤野成美	3. 所属・職名	医学部看護学科・教授
4. 開催期間	令和4年3月1日 ~ 令和4年3月1日		
5. 参加者数 ※参加者名簿(様式任意)を添付	参加者数 <u>29</u> 名 うち、 <u>外国人</u> 数 <u>1</u> 名、 <u>学生</u> 数 <u>11</u> 名 (修士課程以上)		
6. 支援金額	金額 <u>180,000</u> 円		
7. 招待講師	所属 <u>ロンドン医療センター</u> 職名 <u>医師</u> 氏名 <u>有馬 由里子</u> 所属 <u>Family Support Development Officer</u> 職名 <u>福祉職</u> 氏名 <u>Kirsten Holland</u> 所属 <u>福岡県立精神医療センター</u> 職名 <u>医師</u> 氏名 <u>古野 望</u>		
8. 謝金支出額	金額 <u>170,000</u> 円		
9. 国際研究集会の内容	<p>長引く COVID-19 の感染防止による社会不安やストレス、環境の変化からアルコール依存症やゲーム・スマホ依存等のアディクションについて注意喚起がされ、適切な支援が求められている。本セミナーでは、依存症に関する対応方法や支援策を学び、アディクションへの理解を深め、支援者としてのスキルアップのための講演と討議を行なった。本セミナーの第1部では、「英国における依存症問題への取り組み」、「COVID-19 が依存症へ及ぼす影響～英国の医療現場における最新の動向」、「APR (アルコール依存症リハビリテーションプログラム)」、「依存症におけるハームリダクション」、「依存症治療における実際」について、多職種による講演を行なった。第2部では、講演を受けてディスカッションを行なった。なお、本セミナーは Zoom を用いた Web セミナーで開催した。</p>		
10. 特記すべき成果・波及効果	<p>コロナ禍における依存症問題について、英国および日本における実情を講演して頂いた。アルコール依存症対策においては、断酒支援、節酒支援、ハームリダクション等、多職種連携により、個人の状況に応じて必要な支援を提供することの重要性が示唆された。アルコール飲酒については、個人の嗜好性にも大きな影響を受けるため、倫理的配慮の重要性についての討議が活発に行われた。英国で活躍する日本人のご参加もあり、有益な情報共有ができるとともに、今後の課題に対する方策についてディスカッションすることができた。</p>		

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。